

# フューチャー・デザインの手法を用いた職員向け財政研修を開催（木津川市）

～ 部署の垣根を越えた職員の相互理解の促進と、行財政マネジメントの高度化に貢献～

令和6年8月20日 開催  
財務省 近畿財務局 京都財務事務所

CHIHOMEN NEWS vol.128

## 経緯

木津川市幹部と当事務所所長との面談において「フューチャーデザインを用いた財政講義に興味がある」との声をキャッチ。更にヒアリングしてみると…

### 市の課題感

予算編成の際、事業課と財政課がもっと互いの立場を理解し合うべきではないか・・・

事業課：政策実現のためにもっと予算を！  
財源問題は財政課マターの話。

財政課：財源には限りがある！市の施策  
全体を考えて予算配分をしなくては。

- ・ 財務省の視点からの講義を通して、市の財政状況についての理解を深めるとともに、フューチャー・デザイングループワークを通じて将来の視点に立ち、適正で有効な予算配分について、部局の垣根を越えて相互理解を深める機会がほしい。
- ・ 2040年問題（※）を見据え、長期的な市の在り方を財政的な視点で考えていきたい。

※団塊ジュニア世代が65歳以上の高齢者になることで起こりうる、労働力不足・社会保障費増大などの社会課題の総称。

## 当日までの主な流れ

- 1/31 ◀ 往訪し、ニーズを丁寧に聴取  
「次年度予算編成に入る前の、8月頃の開催を希望」
- 2/1 ◀ 財務課・局融資課との連携  
レジュメのたたき台作成に着手。
- 2/22 ◀ フューチャー・デザインの提唱者  
西條教授（京都先端科学大）との面談  
「市が主体性に取り組めるような工夫が大切」とアドバイスが。
- 5/15 ◀ 市の要望を汲んで、ワークを作り込み  
「通常の担当業務に囚われず、市の施策全体について考える機会にしたい」  
「一人一人が積極的に議論に参加できるような仕掛けを」  
「行財政マネジメント強化の観点から、市長をはじめ管理職職員を対象としたい」

- し  
か  
け
- ☑各班に異なるテーマ（子育て・福祉・観光・環境・市の運営・稼ぐ力）を設定、自身の担当業務とは別のテーマについて議論するよう班分け。
  - ☑全員が発言する機会（PRタイム）を設定。
  - ☑各テーマの担当部長に、事前にワークの宿題を依頼。
  - ☑ファシリテーターは市の職員とし、当局職員はサポーターに徹する。

8月 研修本番

市長・副市長を含む約60名の管理職職員が入室と同時にくじ引きで着席。前半は財政融資資金の貸し手である財務省の視点からの財政講義を行い、後半はフューチャー・デザインワークを実施した。

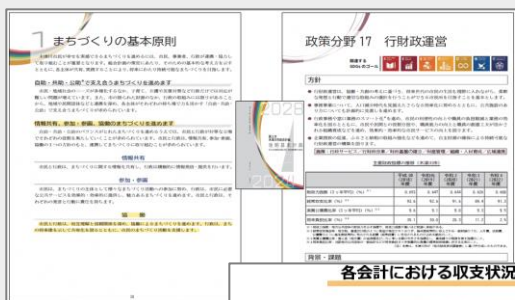
## 当日の様子

### 冒頭挨拶・財政講義



京都財務事務所 田中所長

「フューチャー・デザイン」とは、様々な課題に対し、現世代だけでなくその課題の影響が及ぶ将来世代の立場も踏まえて議論しようという取組み。未来人になったら普段言えない思いも伝えることができるかも？ぜひ楽しみながらワークに参加してください。



市の総合計画・令和4年度決算資料を元に  
収支状況について  
ポイントを絞って説明

各会計における収支状況（令和4年度）

会計別	歳入	歳出	差引額
一 一般会計	3,589,827	3,390,367	199,460
国民健康保険特別会計	711,257	703,238	8,019
農林畜産福祉特別会計	119,585	118,689	896
介護保険特別会計	564,159	540,483	23,676
延岡長尾村地区特別会計	170	143	27
延岡高野地区特別会計	100	64	36
延岡東村地区特別会計	572	548	24
延岡尾村地区特別会計	55	19	36
延岡津町地区特別会計	1,937	1,937	0
水道事業会計	192,089	186,201	5,888
公共下水道事業会計	88,993	130,161	△41,168
合計	5,569,154	5,416,140	153,014

### 借金をする理由

公共施設などの建設にはたくさんのお金がかかりますが、その年度だけで支払ってしまうと他の行政サービスが十分にできなくなってしまいます。また、施設は長期間にわたり使いますので、市債を活用して負担を平準化することで、今住んでいる市民だけでなく、将来施設を利用する市民も含めて負担を平等にしています。

また、学校の建設や道路の整備など国が担う事業を行うための市債には、返済用の一部を国が地方交付税で負担してくれるものもあります。この制度を使えば、実質的に木津川市にとっては返済にかかる負担が減ることになります。

令和4年度決算における一般会計の市債残高約305.5億円に対する実質的な借金は、市債残高から交付税引込額を差し引いた約88億円となります。

市債を使わないで事業を行うと・・・

現在の市民が建設費用を全額負担。将来の市民は負担なし。

市債を使うと・・・

将来の市民も平等に建設費用を負担。現在の市民は負担なし。

→ 将来の市民の立場に立てて今一度考えてみましょう！（第2部グループワークへ）

### フューチャー・デザインワーク

## 2040年の木津川市にタイムスリップ

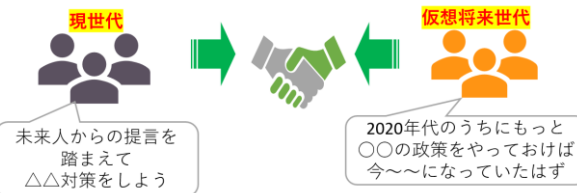
よい未来が想像できたらそれを**実現するために**

悪い未来を想像したら**そうならないために**

今何をすべきか？考えてみましょう

### FDの手法について

- 持続可能な社会を考えると、わたしたちは**利己的・近視眼的**な意思決定をして気づかぬうちに将来世代に負の影響を与えてしまわないよう、配慮する必要があります。
- フューチャー・デザインでは、現世代の議論の中に**仮想将来世代**を参加させ、交渉や利害調整、合意形成を行うことで将来世代の利益も踏まえた意思決定を行います。
- 未来にタイムスリップしたつもりで仮想将来世代となり、将来世代の視点で現世代に提言をします。



▼熱い議論を交わす未来人のみなさん



～フューチャーデザイン・ワークの流れ (90分)～

①-1 未来人になって市の20年後を考えよう

あえて通常の担当ではないメンバーで構成した班で、未来人に成り切り、現代人にメッセージを送ろう！

1. 2040年にタイムスリップ！未来人の視点で考えよう (FD) (1 班)

子育て・教育 の環境は、  
[CT化]に[向]か、[違]な[環]境に[な]っている！

- ・週1日の家庭学習日
- ・高校も義務教育化
- ・児童クラブの充実  
*asota*

2024年の現代人に贈るメッセージ

- ・親のICT化

(例)  
 ●●してくれてありがとう！おかげで  
 2040年では●●が改善されたよ！  
 ●●を▲▲としておいてほしいかった...  
 ●●を○○したいために、  
 ■■しておいた方がいいよ！

② 次年度施策を検討

未来人からのメッセージを踏まえて、次年度着手すべき施策とそのねらいについて議論！

2. (2024年に戻って未来人のメッセージを受け取り、) まず次年度は、どんな施策から始める？ (1 班)

子育て・教育  
 ・子育て支援 ・教育支援  
 ・学校教育 ・社会教育

- ・空教室を活用した民間児童クラブ等への貸出 (送迎付)
- ・民間児童クラブ等での習い事の併用

(理由・ねらい)  
 ・2040年に向けて、どういった環境を創りたいか  
 ・なぜ、まずこの施策から着手するのか等

- ・施設を有効活用
- ・保護者の負担軽減につながる  
ネットでの体験会の開催

R7年 〇 億円

(※ 予算額は概算でOK。不明な場合は空欄でも可)

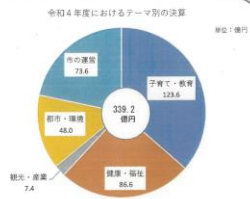
⑤ イチオシ施策を決定

各班の施策の重要性を理解した上で、次年度に着手すべき施策(他班の施策も選択可)を一つだけ決定！

5. イチオシ施策(分野)を決めよう (1 班)

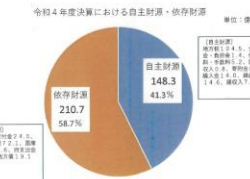
★イチオシ施策・分野

子育て・教育 (未来を担う子どもへの対策)  
 ・施設の有効活用、統廃合での自由時間・確保等  
 ・空教室等への活用



(理由)

・子ども体験機会を増やす  
・保護者の負担軽減



①-2 担当部長からのメッセージ

事前に、各テーマの担当部長に①のワークを依頼し、各班に配付。

★2040年にタイムスリップ！未来人の視点で考えよう (FD)

教育部長より

子育て・教育 の環境は、  
[CT化]に[向]か、[違]な[環]境に[な]っている！

- ・小中一貫教育が浸透し、異学年の児童生徒が交じり合う活動により豊かな人間性・社会性が育まれる教育環境
- ・学校は大人と子どもが一緒に学び、社会を良くしていくためのコミュニティの起点
- ・人工知能により、教えられたことを覚える学びから学びたいことを選び自ら学ぶ教育環境

③ 発表

②について、各班の代表者が発表。

発表

席替え

自分とは違うテーマのメンバーが集まるよう再編

④ PRタイム

“全員発言”ルールとし、自班の施策の重要性を自分の言葉でPR。

PRタイム

先ほど発表した自分の班の施策の必要性をPRしてください。同時に、他の班の施策について知ってください。

必ず全員がPRをしてください

市の施策全体を見通し、どの施策を優先するか検討。その様子は予算編成作業さながら？！

財務省・地方連携推進官から、財務省が地域連携に取り組む意義を説明し、一層の連携を呼びかけ。市長・副市長からは本取組の更なる展開についての期待が寄せられ、アンケートでも高評価が得られた。

## 講評・アンケート

### 講評

#### 木津川市 谷口市長



フューチャー・デザインという手法を用いて、市の将来について担当を越えて議論できたことは今後の行財政運営に向けて有意義な機会となった。非常に闊達な意見交換となり時間が足りないほど。コツコツと真面目に市民のために頑張っていくことで、未来の木津川市が大きく発展することを期待。

#### 木津川市 井上副市長



持続可能な市でありつづけるために、未来を想像しつつ日々の業務を積み重ねるという視点を今後も持っていきたい。今回は管理職向けだったが、ぜひ若手職員向けにも開催してもらいたい。

#### 財務省地方課 村上地方連携推進官



47都道府県に拠点をもつ財務省において、その地域を知り、地域課題解決に貢献することもひとつの使命。財務省のもつ幅広いネットワークを活かし、これからも“頼りにされる財務省”を目指していく。

### アンケート（抜粋）

- ・次年度予算編成にあたり、限られた財源を真に必要な事業に集中し適正に配分するため、**各部の垣根を越えて、相互理解を深める機会となった**。今回の機会を、一過性に終わらせず、しっかり振り返りたい。
- ・色々思いを発表できて**楽しい研修だった**。ありきたりな発想から脱却し、もっと**独創的な発想ができる行政マンが必要になってくると思った**。
- ・普段の業務では、各担当の目線で見えることをしがちだが、それぞれの角度から見ることで違った感覚を持つことを忘れてはならないと実感した。**先の長い目で見て、市の存続・繁栄を見ていく必要性を再認識**できた。

#### …あとがき…

- ・少子高齢化が進む中、持続可能なまちづくり・限られた財源の適正配分は多くの地方公共団体において共通の課題といえます。また、木津川市と同様に、財政課と事業課の一層の相互理解が必要だと考えている地方公共団体も多いのではないのでしょうか。
- ・地方公共団体自身では冷静に捉えにくい財政の現状について、財務省の視点からの客観的な分析にフューチャー・デザインの手法をプラスし、市の将来を見据えて部署横断的に意見を交わす機会を提供することで、地方公共団体の行財政運営に貢献できれば幸いです。

～これからも地域の課題解決に資する取組を推進してまいります～

近畿財務局京都財務事務所 総務課・財務課

TEL : 075-752-1417 / E-mail : kyoto-soumuka@kk.lfb-mof.go.jp